高知県立文化施設事業評価委員会（平成 29 年度事業） 評価表　　高知県立美術館

優れた芸術の魅力を伝えるとともに、独自のコレクションを後世に伝える

要求水準ー収集・保存

収集方針に基づき資料を収集し、適切な保存・管理を行う

評価項目
（1） 本県出身の作家を中心として、特色ある資料の充実に努める
（2） 資料の整理・分類、点検・劣化防止等の処置を適切に行う

状 況 説 明
（1）本県出身の作家を中心として、特色ある資料の充実に努める 絵金の「子供四季風俗図」をはじめ、石川寅治の油彩画やデッサン、山脇信徳の油彩画や水彩画、中村博、今西中通の油彩画等合計 11 点（評価額 6,300 千円）の寄贈を受けた。 （2）資料の整理・分類、点検・劣化防止等の処置を適切に行う ・美術作品・資料は、収蔵庫に保管し、24 時間空調による温湿度管理の下で適正に保存管理している。 ・コレクション展など各展覧会に出品する作品の事前コンディション・チェックを行い、吊り金具や釘の交換といった額の整備、版画等の台紙の交換や保存箱の作成など、作品の状態に合わせて適宜適切な対応を取っている。 ・石元泰博作品は資料を適切な温湿度環境下で保存管理するため、プリント収蔵庫に、フィルムは石元フォトセンター専用保管庫に保管している。 ・展示室は、入り口に受付員を配置し、また、24 時間監視カメラ及び警報システムによる警備を行っており、展示作品の安全を保っている。 ・収蔵庫内外、また展示室内外の「環境モニタリング調査」を専門業者に委託して定期的に実施することで、各部屋の害虫やカビの発生状況を把握し、それらを防除する対策をとっている。 ・書庫・アート情報コーナーでは、企画展の内容に関連した図書類の特集コーナーを設置や、全国の美術館・博物館等の文化施設が開催した展覧会の図録や一般美術図書を整理・公開、端末 PC を設置して整理を終えた石元泰博作品の画像を一部公開している。また、旧ライブラリーからの蔵書の移管・台帳更新を引き続き行い、各蔵書の適切な分類保管を行っている。 ・全国美術館会議の保存研究部会へ参加するなど、職員の作品保存、美術館 IPM（総合的有害生物管理）に関する専門知識の向上を図っている。

評価	理 由
A	・収集方針に則り、本県ゆかりの作家の代表的作品を収集することができている。 ・収蔵庫の保存環境保全に努め、適切な方法で収蔵資料を保管するとともに防犯セキュリティ面でも収蔵庫、展示室等の安全を保っている。

要求水準ー調査・研究
収蔵資料の調査研究を進め、その成果を公開する

評価項目

（1） 職員の専門性の向上を図るとともに、調査研究の成果を、資料の公開や図録・記録集の作成等により、広く発信する

（2） 石元泰博コレクションの調査・研究を進め、適切な利活用を図る

状 況 説 明

（1） 職員の専門性の向上を図るとともに、調査研究の成果を、資料の公開や図録・記録集の作成等により、広く発信する

・各学芸員が、全国美術館会議の保存研究部会、教育普及部会、地域美術研究部会にメンバーとして参加した。また、美術館連絡協議会や中四国アートマネジメント研究会、四国美術館会議、明治維新150 年高知ミュージアム連絡協議会、せとうち美術館ネットワーク等の大会や部会、ワークショップ等に参加して専門性を向上させた。

・高知大学と連携し、授業等に学芸員が講師として赴くほか、学生を相手にギャラリートークも行った。また、高知大学と郡頭神社（こおりずじんじゃ・高知市鴨部上町）が共同制作した夏祭りの実態を伝える冊子の編集に携わった。

・ホール担当職員が、国際交流基金アジアセンター主催のアジアの同時代舞台芸術を担う次世代育成プログラム「Next Generation」、ソウル舞台芸術見本市（PAMS）、中四国地域アートマネジメント研修会、全国公立文化施設協会中四国支部「業務管理研究会」等に参加して専門性を向上させた。

・コレクション・テーマ展「絵金特集　もうひとつの絵金」展に関連して、高知大学と連携し紀要の論文を執筆した。また「生誕 300 年記念　中山高陽展」では、個人所蔵家や高知市立市民図書館の調査協力を得て、所蔵作品に対する新たな知見を踏まえた展示を行った。

・企画展「高崎元尚新作展」では、作家が美術館で発表した新作の写真及び詳細な作家年譜を収めたドキュメントカタログを作成し、地元作家の研究を進めることができた。また、「岡上淑子コラージュ展」では、岡上の全作品を網羅し年譜や展覧会歴などをまとめた公式図録『岡上淑子全作品』を出版し、一般書籍として全国の書店で販売した。

・アーティスト・イン・レジデンスでは、インアドネシアの現代人形劇のカンパニー「ペーパームーン・パペット・シアター」のメンバー8名が、土佐和紙とその製造に関わる農家、職人などリサーチ活動を広範囲に行い、さまざまな人々と交流して作品作りに反映させ、地元のアーティストと共に作品発表を行った。また、その経過や成果を報告書としてとりまとめ、全国に配布した。

（2） 石元泰博コレクションの調査・研究を進め、適切な利活用を図る

石元泰博フォトセンターの事業実施5ヵ年計画の最終年として、「深める（保存管理、調査研究、収集）」、「広める（展示公開、著作権管理）」、「つなぐ（教育・普及）」の活動を展開した。

① 「深める」活動

・総数 34,753 枚の簡易複写データの照合確認、複写後のプリント作品情報のデータ入力（レコード数27,259 件、進捗率 79%）、高精彩プリント作品の複写（596 枚）、保管庫で管理しているフィルムのうち1,088 スリーブのデジタル化とデータベースへの追加を行い、その内容は外部研究者に一部公開した。

・寄贈資料（小物類、調度品など）のほか、新たに遺族より借用した資料について、内容確認と調査を行い、コレクション展で展示公開を行った。

・パリのカルティエ現代美術財団、アンリ＝カルティエ・ブレッソン財団、ヨーロッパ写真美術館、ポンピドゥー・センター・メッスに訪問し、所蔵する石元作品調査や関係者との意見交換などを通じて、ネットワーク構築を行った。

② 広める」活動

・コレクション展として、「カリフォルニアの住宅　グリーン・アンド・グリーン」、「東京―山手線界隈」、「色とことば」をテーマに、それぞれ前期後期の計6回合計 183 点の作品及び関連資料を紹介した。また、企画展「高知県立美術館二大コレクション展」では、写真集『シカゴ、シカゴ』に掲載された写真 209 点をオリジナル・プリントで紹介し、撮影に使用したカメラなど資料類もあわせて展示を行った。
・著作権の利活用取扱業務として、国内外からの相談など 41 件に対応し、32 件の利用につなげた。
・コレクション展「カリフォルニアの住宅　グリーン・アンド・グリーン」関連企画として、グリーン・アンド・グリーン建築の研究家である米国ギャンブル邸館長、エドワード・R・ボスレー氏による記念講演会を開催した。
・パリのカルティエ現代美術財団にて開催された展覧会「オート・フォト」に 12 点、ポンピドゥー・センター・メッス「ジャパン＝ネス　日本建築展」に 5 点を貸出した。担当学芸員が現地でのオープニングレセプションに参加し、現地関係者との交流を深めた。
・武蔵野美術大学・芦原義信アーカイブの視察を行い、担当者と意見交換を行った。
・展覧会協力として、森美術館、香川県庁、三重県立美術館、川崎市岡本太郎美術館、ゲティ・ミュージアム、シカゴ大学からの調査を受け入れた。
・日本写真芸術学会関西支部のシンポジウムのパネリストとして学芸員が参加し、石元泰博フォトセンターのコレクションと活動について紹介した。

③ 「つなぐ」活動

・蓮池小学校及び高岡第二小学校を対象に、学芸員による事前授業を行ったうえで、チャーターバスで美術館へ招待し、作品を鑑賞する事業「スクール・プログラム」を行った。
・日本写真芸術学会の講師として、学芸員による講演を行った。
・専用ウェブサイトにおいて、各コレクション展の情報発信のほか、過去に学芸員が地元新聞に執筆した石元関連記事を掲載した。

評価	理 由
A	・調査研究の成果としての企画展やコレクション展の開催、大学や他館との連携による出版物の発行ができている。 ・ホール事業では、担当者の専門性の向上を図っており、また海外アーティストのレジデンス招聘や交流など活発な活動を進めている。 ・石元泰博フォトセンターでは、氏の故郷である土佐市の教育委員会と連携し、子どもたちが作品の魅力と郷土の偉人について学ぶ機会を提供するとともに、作品の借用申請等を通じて国内外の美術館や大学等と連携を深め、作品を広く紹介するなど、情報発信と利活用促進の活動が出来ている。

要求水準ー展示･公開
質の高い、優れた芸術に触れる機会を提供し、芸術や文化に対する関心を深める

評価項目

（1）世界有数のシャガールコレクションの展示など、質の高い魅力的な常設展・企画展を開催し、５年間で25万人以上の観覧者を目指す

（2） ホールの特性を生かした事業を実施し、美術館の魅力向上に努める

（3） 講演会やギャラリートークの実施など、来館者の芸術や文化への理解を深めるためのサービスを充実させる

状 況 説 明

（1）世界有数のシャガールコレクションの展示など、質の高い魅力的な常設展・企画展を開催し、5年間で25万人以上の観覧者を目指す

常設展計 15 回、企画展 3 回、巡回展 1 回、特別展 1 回を開催（年間観覧者：102,966 人）

① シャガール・コレクション展

・シャガールのコレクションから、「夢の旅路」を年間のテーマに据えて、シャガールの宿命的な「旅路」を主題にした版画作品を中心に 5 回に分けて紹介した（総出品数 199 点）。

② 石元泰博・コレクション展

・石元泰博コレクションから、「カリフォルニアの住宅　グリーン・アンド・グリーン」、「東京―山手線界隈」、「色とことば」をテーマに、建築写真や街頭写真、カラープリントといった多様な石元作品を6回に分けて紹介した（総出品数 183 点）。

③ コレクション・テーマ展

・「絵金特集　もうひとつの絵金」（総出品数 20 点）

・「高知の洋画」（総出品数 51 点）

・「高知の版画」（総出品数 55 点）

・「生誕 300 年記念　中山高陽展」（総出品数 34 点）

④ 巡回展「これぞ暁斎！ゴールドマン・コレクション」（総出品数 156 点）

・幕末から明治初期に活躍した江戸の絵師、河鍋暁斎の作品を、世界随一のコレクションとされるイギリスのゴールドマン・コレクションから厳選して紹介した。

⑤ 企画展「高崎元尚新作展」（総出品数 6 点）

・本県を代表する美術作家、高崎元尚の代表的シリーズである「破壊」を、作家の協力のもと、新たな規模で再制作し展示した。

⑥ 特別展「チームラボー踊る！アート展と、学ぶ！未来の遊園地ー」

・デジタルアート集団チームラボの、世界的に高い評価を受けているアート作品（アート展）と、全国各地で人気を博している参加型作品（未来の遊園地）を併せて紹介した（総出品数 7 点）。

⑦ 企画展「高知県立美術館二大コレクション展」（シャガール 105 点、石元泰博 209 点）

・「マルク・シャガール」展ではパリをテーマとする作品でシャガールの足跡をたどる展示を、「石元泰博写真展」では、写真集『シカゴ、シカゴ』に掲載された全作品をオリジナル・プリントで紹介した。

⑧ 企画展「岡上淑子コラージュ展」（総出品数 117 点）

・本県出身の「幻の作家」岡上淑子の初の大回顧展として、国内現存分のオリジナル・コラージュ作品をほぼすべて網羅したうえ、制作ノートやスケッチ、当時の掲載雑誌等豊富な資料類と併せて紹介した。

（2）ホールの特性を生かした事業を実施し、美術館の魅力向上に努める

①アーティスト・イン・レジデンス 2017＆公演「ペーパームーン・パペット・シアター新作人形劇（インドネシア）」ワークショップ 2 回　2公演

・2015 年度にレジデンス＆新作公演したインドネシアの人形劇カンパニー「ペーパームーン・パペット・シアター」のレジデンスメンバーを再招聘し、いの町での土佐和紙のリサーチや小学校でのワークショップなどを経るなか、地元アーティストらと創作活動を重ね、大規模なレジデンスと新作公演に発展させた。

②ジャコ・ヴァン・ドルマル監督＆ミシェル・アンヌ・ドゥ・メイ「キス＆クライ」（ベルギー）1 公演
・ベルギー映画界の鬼才監督とコンテンポラリーダンス界を牽引する振付家兼ダンサーらが作りだした、映画と舞台芸術を融合させた異色の舞台公演を当館が単独で招聘し、日本初演を行った。
③カンパニーXY 公演「夜はこれから」（フランス）1 公演
・総勢 22 名からなるフランスを代表する現代サーカス集団カンパニーXY の新作を、東京都の世田谷パブリックシアター、福岡県の公益財団法人福岡市文化芸術振興財団との3館で共同招聘した。
④定期上映会（春夏秋冬）８日間計１６本上映
⑤「四万十川国際音楽祭 2017」、「演劇祭 KOCHI2017」、「ステージラボ高知セッション」、「Washi + Performing Arts? Project」、「シネマの食堂 2017 オープニング上映会」、「Dance Archive Project」、「第２回高知能楽堂まるごと見学会＋能楽ミニ体験」といった多彩な舞台芸術を共催。

（3）講演会やギャラリートーク等、来館者の芸術や文化への理解を深めるためのサービスを充実させる
作家や作品内容に多角的な視点で、より理解を深めてもらうために、研究者、美術館関係者を招聘し講演会、レクチャー、ギャラリートーク、ワークショップ等を開催した。
・「これぞ暁斎！ゴールドマン・コレクション」では、本展監修者で日本女子大学名誉教授、及川茂氏による講演会、担当学芸員によるギャラリートークと朝食をセットにした企画、漫画家、村岡マサヒロ氏によるワークショップを開催した。
・「高崎元尚　新作展」では、京都国立近代美術館主任研究員、平井章一氏と香美市立美術館長・美術作家、都築房子氏による講演会や学芸員による作品探検ツアーやワークショップを開催した。
・「高知県立美術館二大コレクション展」では、担当学芸員によるレクチャーを開催した。
・「岡上淑子　コラージュ展」では、写真史家金子隆一氏による講演会や、画家・イラストレーター山本明子氏によるワークショップ（こども編・大人編）を開催、会場前にコラージュ体験コーナーを設置した。
・シャガール・コレクション展では毎週土・日、コレクション・テーマ展は毎週土曜日、企画展は日曜日に、学芸員や解説補助員がギャラリートークを実施した（総回数 91 回、総参加者数　855 人）。
・「ペーパームーン・パペット・シアター新作人形劇」では、公演前にアーティスト、イワン・エフェンディとマリア・トリ・スリスチャニによる小学生向けのワークショップを開催した。
・「キス＆クライ」では、終演後に監督、ジャコ・ヴァン・ドルマルと映画評論家、大久保賢一氏によるアフタートークを開催した。
・「カンパニーXY　夜はこれから」では、公演に先立ち、カンパニーのメンバーによるワークショップを高校生向けと一般向けに、終演後に出演者によるアフタートークを開催した。
・共催事業「Dance Archive Project」では、公演に先立ち、コンテンポラリー・ダンサー、岡登志子氏によるワークショップを開催した。

評価	理　由
A	・企画展、コレクション展などは、本県ゆかりの作家にスポットを当てたものや、若年層・ファミリー層など利用者層を広げるもの、また、館の二大コレクションを広く発信するものなど多彩な構成となっており、観覧者数も目標を大きく上回っている。企画展やホール公演と連動した講演会、ワークショップやギャラリートークなどイベントの多角的、多面的な理解を促進する取り組みが行われている。 ・世界の舞台芸術の招聘や情報発信、アーティスト・イン・レジデンス事業を通じたアーティストと県民の交流など美術館ホールが長年の活動で培ってきた成果が表れている。

要求水準ー教育・普及
様々な年代を対象とした教育・普及活動を行う

評価項目
（1） 学校や関係機関と連携を図り、子どもたちの芸術や文化に触れる機会を充実させる
（2） 幅広い年代の方に、芸術や文化に親しむ機会を提供する

状 況 説 明
（1）学校や関係機関と連携を図り、子どもたちの芸術や文化に触れる機会を充実させる 学校と美術館が連携して行う事業を「スクール・プログラム」として実施した。 ・団体利用（30 校 1,371 人、32 園 793 人）。特に「チームラボ―踊る！アート展と、学ぶ！未来の遊園地―」展では、保育園・幼稚園などから新たな利用が多数あった。 ・ミュージアム・バスツアー（4 校 246 人） ・出前びじゅつ講座（2 校） ・石元泰博フォトセンター事業（2 校 58 人）事前学習として出前びじゅつ講座を利用した。 ・出前クラシック教室（5 校 11 回） ・出前演劇教室（2 校） ・ティーチャーズ・デイ（4 回） （2）幅広い年代の方に、芸術や文化に親しむ機会を提供する ・中学校の職場体験学習（中学生６人） ・高知医療学院の学生 73 人が企画展「高崎元尚新作展」、「Dance Archive Project」を鑑賞 ・学芸員資格取得のための博物館実習（大学生 11 人） ・企業実習生（大学生 1 名） ・高知大学に非常勤講師として学芸員を派遣 ・開館記念日イベント（11 月 3～5 日）（入場者 14,467 人） 展覧会、映画上映会、パフォーマンス等、館主催のイベントを無料公開した。 ・お正月企画（1 月 2 日、3 日）（入場者 1,108 人） 琴などの楽器によるお正月演奏会や「名野川磐門神楽（なのかわいわとかぐら・仁淀川町）」全 16 演目をホール能楽堂で無料上演した。 ・企画展関連イベントとして講師を招聘して行うワークショップ、関連映画上映会等を開催した。 ・ホール事業関連イベントとして「ペーパームーン・パペット・シアター新作人形劇」では 2015 年に開催したレジデンス＆公演「かくれんぼ」の記録写真を高知市内の古民家ギャラリーで展示したほか、「キス＆クライ」では公演に先立ち、監督らの長篇映画やダンスフィルムを無料で上映した。 ・県民ギャラリー、美術館ホール等の貸出を行った（県民ギャラリー・企画展示室：延べ 34 件、 美術館ホール：延べ 213 件）。 ・乳幼児を抱えた方々が安心してゆっくりと美術館で鑑賞・観覧できるよう、各企画展、ホール公演時に有資格者による無料託児サービスを実施した。 ・多様な活動で美術館を支える大切なパートナーであるカルチャーサポーターとの協働を積極的に進めるなか、5年ぶりに新規のサポーター募集を行い、平成 30 年度から新たに 28 名が活動に加わることになった（総数 66 名）。

評価	理　由
A	・スクール・プログラムを継続的に実施し、子どもたちが芸術や文化に触れる機会を創出している。 ・幅広い層の利用者ニーズに合う企画展や公演、その他事業を創意工夫して企画し、県内外から新しい来場者層の獲得を図っている。 ・開館記念日、お正月のイベントを充実することにより、幅広い層に対して美術館に親しんでもらう機会を提供できている。 ・カルチャーサポーターを新たに募集し、芸術や文化に親しむ機会を提供するとともに、県民の美術館への理解を深めるよう努力している。

要求水準ー広報

評価項目　美術館活動に関する戦略的な情報発信により、県内外に館の魅力を広める

状 況 説 明
・県内外のマスコミ等に展覧会やホール事業の開催情報を速やかに提供し、新聞、情報誌、WEB 媒体等の掲載につなげた。 ・通年の事業を紹介するリーフレット「年間スケジュール」は、わかりやすく、誰にでも手に取ってもらえるよう、デザインに工夫を凝らして作成した。 ・年 4 回発行の定期刊行物「KENBI　LETTER」は見どころやエピソード、アーティストからのメッセージ等を盛り込み、事業や美術館に興味を持てる内容になるよう工夫した。 ・マルク・シャガールと石元泰博のコレクション展を紹介するリーフレットは、様式デザインを「対」にすることで、二大コレクションのイメージを強く打ち出した。 ・ホームページを、スマートフォン等タブレット端末に対応し、魅力あるものに全面リニューアルした。 ・フェイスブック、ツイッター、インスタグラム、メールマガジン等、電子メディアを活用し情報発信を積極的に展開した。 ・各事業での重点的な取り組み ①「これぞ暁斎！ゴールドマン・コレクション」展では、幕末維新博関連事業として、県内外の情報誌や WEB 媒体による情報発信、愛媛、岡山及び香川での近隣県のテレビ CM を重点的に行った。 ②高崎元尚新作展」では、出身校や関係機関等へ印刷物の配布等を依頼した。 ③「チームラボ」展では、かなり早い段階からCMを中心に積極的に広報活動を展開、オープニングに園児と保護者を無料招待する等、ファミリー層をターゲットにテレビ媒体と口コミによる情報拡散を図った。 ④「岡上淑子コラージュ展」では、会期前に美術、ファッション、インテリア及び写真等のジャンルをターゲットにプレスリリースを発送、NHK「日曜美術館」、「美術手帳」、「芸術新潮」などで採り上げられ、全国的な広報効果を獲得した。 ⑤「ペーパームーン・パペット・シアター新作人形劇」公演では、前回の来場者やワークショップ参加者へチラシを配布し、口コミ効果を得た。テレビやラジオの有料広告で、媒体を使った情報発信を図った。 ⑥「キス＆クライ」公演では、ホール事業のアンケート回答者や、高知市内の映画上映会やダンス公演でチラシ配布等を行った。また、告知映像を制作し、テレビ CM と SNS の有料広告により全国配信した。 ⑦「夜はこれから」公演では、他の開催館と共同で告知映像を作成し、SNS で拡散した。また、体育コースのある県立高校でワークショップを開催し、参加者の口コミによる来場促進を図った。 ・四国最大級のクラフトイベント「VILLAGE」に出店し、展覧会、ホール事業等美術館の活動を紹介し、県内外からの新たな来館者層の獲得を図った。 ・開館記念日イベントを連休 3 日間に拡大して行い、当館の事業を大々的にPRするとともに、アートを通した交流の場を提供した。 ・クリスマスやお正月に年末年始のイベントを行い、来館者増を図った。

評価	理 由
A	・企画展やホール事業について、ツイッター、フェイスブック、インスタグラムなどのソーシャルメディアも活用して効果的な情報発信が出来ている。

要求水準ーその他

評価項目
　県内外の他の博物館等と連携した事業の充実により、県民サービスの向上を図る

状 況 説 明
① 展覧会における連携 ・高知さんさんテレビ株式会社と実行委員会を立ち上げ、当館単独では開催できない大型企画展（「チームラボ―踊る！アート展と、学ぶ！未来の遊園地―」）を開催し、県内外のファミリー層、若年層から多数の来館が得られた。 ② ホール事業における連携 ・バービカンセンター（イギリス）、パース国際芸術祭（オーストラリア）と連携し国際共同製作作品「ZERO POINT」を製作、美術館館で世界初演を行った。 ・地域のギャラリーとの連携企画として、ペーパームーン・パペット・シアターのメンバーが 2015 年に実施したレジデンス＆公演「かくれんぼ-HIDE and SEEK-」の記録写真展を開催した。 ・カンパニーXY公演「夜はこれから」を、公益財団法人福岡市文化芸術振興財団、世田谷パブリックシアターと招聘することができた。 ・「ペーパームーン・パペット・シアター新作人形劇」は、県内の製紙会社やギャラリー、「キス&クライ」では学校法人等の外部団体の協力を得て実施した。 ③ 所蔵作品の貸出 ・国内では、県内外の企画展 8 件に合計 22 点の貸出を行った。 ・海外では、パリのカルティエ現代美術財団に 12 点、ポンピドゥー・センター・メッス 5 点の貸出を行った。 ④ 県内外とのネットワーク ・県内では、こうちミュージアムネットワーク、明治維新 150 年高知県ミュージアム連絡協議会に参加し、連携を深めた。 ・全国では、全国美術館会議、日本博物館協会、美術館連絡協議会、公立文化施設協議会、コミュニティシネマセンター、ジャパン・コンテンポラリー・ダンス・ネットワーク、劇場・音楽堂等連絡協議会、四国美術館会議、四国博物館協議会、中四国地区公立文化施設協会に加盟し、各会議、研究会、研修会に参加し、これらを通じた交流によって得た見識を地域に還元している。 ⑤ 講師派遣等 　県内外の美術館や大学等に職員が委員、講師、審査員として協力し、連携や情報収集に努めた。 ・北九州市立美術館協議会、相生森林美術館協議会資料収集委員会、高知県芸術祭執行委員会、高知市文化財保護審議会、高知市史編さん委員会専門部会、土佐和紙国際化実行委員会、高知国際版画トリエンナーレ展幹事会、香美市立図書館建設等検討委員会、中土佐町立美術館についての検討会の委員を務めた。 ・つなぎ美術館「アーティスト・イン・レジデンスつなぎ 2017」、香川県中学校教育研究会高松支部、高知大学の講師のほか、岡山県新進美術家育成「I 氏賞」選考会、高知県障害者美術展、高知県版図柄入りナンバープレート選定協議会の審査員を務めた。 ⑥ 市町村やNPOに対する支援 ・四万十国際音楽祭や演劇祭 KOCHI、シネマの食堂といった優れた芸術祭を引き続き支援した。 ・当館学芸員が「すさき芸術のまちづくり実行委員会」が主催するアート・イベント「現代地方譚５－想像の葦」の運営に協力した。

評価	理 由
A	・調査研究、連携体制づくりなど地道な活動を続け、国内外の施設・団体との連携を強化してきた成果を共同企画展や国際共同製作作品として形にし、県民に還元しているとともに、県内外の他施設にも貢献していることが認められる。 ・地元で活動するギャラリーや若手アーティストとの関わりを深め、単独では実現できなかった新しい取り組みとして、県民にその成果を還元することができたと認められる。

要求水準ー施設管理
施設及び設備の適切な保守管理をとおして、故障や事故のない運営を行う

評価項目		
(1)適切な管理運営の確保	社会的責任	・法令等の遵守　・個人情報、情報公開の状況
	建物や設備の管理	・点検、修繕の実績　・業務委託の状況
	危機管理	・風水害、火災、地震、盗難等危機管理対策 ・マニュアルの作成　・職員研修

状 況 説 明
(1)社会的責任 ・高知県立美術館の設置及び管理に関する条例並びに指定管理に関する協定等に基づき、適切な施設の管理運営に努めるとともに、専門業者へ委託した業務に関しても関連法規に沿った施設管理を徹底させた。また、全職員に対し、労働関係法規(勤務時間、時間外命令、週休日の振替方法等)や危機管理関連法規(来館者の安全確保、館のセキュリティ確保等)、個人情報の適切な管理等について、随時確認し、徹底させている。 ・平成 29 年度中の美術館に関する開示請求は、なし。 ・個人情報については、高知県文化財団個人情報保護規定に基づき、収集、利用を適正に行い、利用目的の終了した個人情報は、焼却処分した。 ・保管の必要のない個人情報は、随時、裁断処理している。 ・職員のパソコンには、パスワードを設定し、定期的にパスワードを変更するとともに、館外への持ち出しは原則禁止、また、USB 等は自宅に持ち帰らないことを徹底させている。 (2)建物や施設の管理 ・ホール及び展示室の吊り天井耐震工事など大規模改修と連動させた修繕の年次計画を策定し、計画をもとに、日常点検や設備の更新、修繕を行った。(修繕件数:33 件 5,656 千円) ・施設の適切な管理運営のため、専門業者に業務を委託した。(委託件数:29 件 74,529 千円) (3)危機管理 ・館職員で構成する危機管理部会において「危機管理マニュアル」「消防計画」等の改定作業を進めた。管内消防署の指導・助言を得ながら、館に常駐するレストラン、委託業者の従業員も参加して、開館時間中に避難誘導訓練を実施した。 ・職員通用口等で入館者の出入りを管理し、不審者の侵入を防止した。また、搬入口の2重シャッター(内・外)は、搬入口使用マニュアルに沿って、職員の許可を得て開閉することとし、不審者の侵入防止と、外気、風雨の侵入抑制を図った。

評価	理 由
B	職員や委託先などに関係法令が徹底されており、各法令に基づいて、適正な管理運営体制がとられている。

評価項目	
（2）利用者サービスの維持向上	・利用者の意見の反映　自己点検、評価の状況　・事故、クレームへの対応 ・職員の専門性の向上　・研修の実施状況　・その他サービス向上の取り組み

状 況 説 明
（1）利用者の意見の反映 ・自主事業の内容・年間の組み合わせ等は、利用者の多様な意見を勘案しながら、長期的な視点で、総合的、計画的に決定している。 ・施設・設備のハード面での意見等については、緊急性・必要性を判断し対応している。運営に関するソフト面での意見等については、速やかに組織内で共有し、対応策を決定している。 （2）自己点検・評価の状況 ・企画展やホール事業ごとのアンケート調査に加え、サービス全般に関するアンケートを据え置き、来館者満足度の把握に努めた。これらのアンケート票は、職員全員で回覧するとともに、必要に応じてレストランや貸館の主催者にも伝達し、改善策を検討している。その他、職員によるサービス部会を定期的に開催し、日々の業務やアンケート等から得られた利用者のニーズや課題への対策を検討・協議し、館会議や課長会等で共有し実施した。 （3）事故、クレームへの対応 ・クレーム、要望等については、内部で協議し、速やかに対応するとともに、その状況を朝礼等で報告し、情報共有した。事故に対しては、管理職に報告・相談しながら、速やかに対応した。 （4）職員の専門性の向上・研修の実施状況 ・様々な機会をとらえて積極的に職員を研修に参加させるとともに、新採職員については、3 年計画で OJT 研修を進め、資質の向上に努めた。参加した研修は、劇場・音楽堂等技術職員研修（1 名）、ステージラボ横浜セッション（1 名）、全国公立文化施設協会中四国支部業務管理研究会（1 名）、中四国地域アートマネジメント研修会（1 名）、財団救命講習（28 名）、財団会計研修(12 名)等 （5）その他サービス向上の取り組み ・主催展覧会ごとに、職員向けのギャラリートークを実施し、職員全体の展示作品や作家に対する知識の習得に職員全体で取り組んだ。

評価	理 由
B	・アンケートの要望について、可能な範囲で要望に対応する努力をしている。 ・サービス部会を定期的に開催し、サービスの向上を図るとともに、職員の専門性やスキルアップを図るため外部研修等も活用しながら積極的に取り組んでいる。

評価項目		
（3）利用実績	利用実績の状況	・利用状況の分析

状 況 説 明
（1）利用実績の状況 ・展覧会観覧者数 102,966 人(常設展 9,648 人、企画展 25,138 人、特別展 68,180 人)（28 年度 43,860 人） ・美術館ホール入場者数（自主事業 4,335 人、貸館事業 33,084 人）（28 年度　自主事業　4,455 人　貸館事業　40,525 人） ・県民ギャラリー利用状況　38 件　（28 年度　37 件） （2）利用状況の分析 ・「チームラボ―踊る！アート展と、学ぶ！未来の遊園地―」展が 68,180 人と好評で、年間5万人の目標を大きく上回った。（206%） ・教育普及事業、美術館ホールの自主事業、県民ギャラリー等の貸館事業など展覧会以外の事業も含む美術館事業全体の総利用者数の目標値として、美術館独自に年間 20 万人を設定して取り組んだ結果、この目標値も3万人余り上回る実績となっている（達成率約 115%）。

評価	理 由
A	・展覧会事業の観覧者数、美術館事業全体の利用者数は目標を大きく上回っている。 ・「チームラボ―踊る！アート展と、学ぶ！未来の遊園地―」展や開館記念日イベントなどの開催を通じて、県内外から小さい子ども連れの家族をはじめ、これまで美術館に足を運ばなかった層が多数来館しており、新しい客層の取り込みに成功している。

評価項目		
（4）収支の状況	経営努力	・収入増加の取り組み　・経費削減の取り組み

状 況 説 明
（1）収入増加の取り組み ・上質な企画展や公演を導入するため、情報収集に努め、見本市や展覧会視察等も積極的に行った。また、開催にあたっては、入念に計画・準備し、質の高いものを提供している。 ・広報部会を毎月開催し、広報の展開状況を検証し、改善するとともに、展覧会やホール事業ごとに特徴、特性を活かした独自の広報を検討し、実施した。媒体としてテレビや新聞の年代層に応じた活用、さらにはフェイスブックやツイッター等SNSによる情報発信に積極的に取り組み集客の増加を図った。 ・他の文化施設や企業と連携した利用料の一部減免やタウン誌への招待券提供により、効果的な誘客につなげた。 ・ホール事業を中心に国等から外部資金の獲得を図った。（文化庁他、計6団体　総額 27,448 千円） （2）経費削減の取り組み ・職員はもとより、委託事業者にも省エネ・省資源の意識を徹底させた。 ・入札等による委託料などの経費削減や県と四国銀行等との協定を活用し、チラシ配布経費を圧縮した。 ・特別展を除く展覧会入場者が目標を下回ったことから観覧料が予算を下回ったが、助成金など他の収入を上げ、委託料や燃料費などの支出を抑えることにより収支は黒字とした。 ※特別展は実行委員会形式のため別収支

評価	理 由
A	・外部資金の積極的な導入など収入源の多様化、安定化を図っており、経費削減の努力と併せて事業活動収支を黒字にするなど、取り組みに努力が認められる。

総合評価

評価	理 由
A	・展覧会は、これまで紹介される機会の少なかった作品や本県ゆかりの作家にスポットを当てるなど作品の選定や構成が練られている。また、企画展や公演と連動した講演会、ワークショップなどの関連イベントの開催により、多角的、多面的な理解を促進する取り組みが行われている。 ・アーティスト・イン・レジデンス事業では、アーティストと県民の交流が進むとともに、過去の参加アーティストが美術館ホールで公演を成功させるなどの成果を見せ、着実に発展している。 ・教育普及活動では、スクールプログラムを継続して行っている。 ・ツイッター、フェイスブック、インスタグラムなどのソーシャルメディアも活用して効果的な情報発信が出来ている。 上記のとおり、優れた管理運営・事業の遂行がなされたものと認められる。

評価基準
「A」 要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされた。
「B」 概ね要求水準どおりであり、適正な管理運営・事業の遂行がされた。
「C」 要求水準に達しない面があり、改善のための工夫や努力が必要。
「D」 管理運営・事業の遂行が適正に行われたとはいえず、大いに改善を要する。